

「何も無い田舎」には
本当に「何も無い」ですか？



特集
上を向いて歩こう
～『春蘭の里』の挑戦～

12
平成22年



広報のと 第70号 平成22年12月1日発行

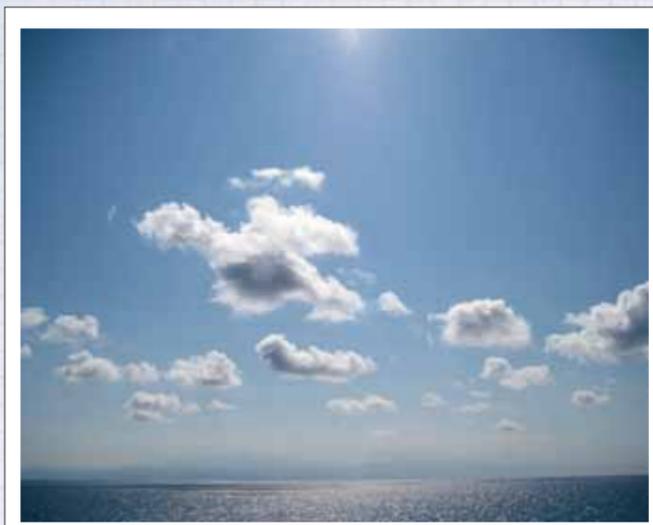
発行・能登町 編集・広報情報推進課
〒927-1049 石川県鳳珠郡能登町字出津新1字199番地1

☎：0768-62-10000
能登町URL：http://www.town.noto.lg.jp
Eメール：info@town.noto.lg.jp

の
能登
と
英国
日
和
イギリス

能登町を故里として
英国で活躍する抒情書家

室谷文音がつづる
フォトエッセイ



能登で毎日暮らしていると、「偶然の出会い」がたくさんあります。その時、その場所に居たからこそ体験できた「その瞬間」たちに感謝しています。能登に出会えてありがとうございます！



ヨーロッパではクリスマスは家族と過ごす大切な時間です。皆で集まりおいしいものを食べて飲んで話をするのが、年に一度の楽しみなのです。

「聖域」

ワイン造りに命をかけているフランスのぶどう園ではいつさいぶどうに水をまかない、と言います。その年、その年に降る雨だけが頼りなのだそう。だから、ワインのおいしい年とそうでない年が自然と生まれるのです。

その話を聞きながら私は奥能登のある酒蔵を思い出していました。案内された夏の酒蔵は美しく片付けられ、きれいに並んだお酒造りの道具を見た時、涙がこぼれました。そこは「聖域」でした。

こだわってお酒を造っている人は世界中にいるんだと完璧に手入れされた茶畑のようなフランスのぶどう園を眺めながらうれしくなりました。毎年毎年、お米のできも違います。

「相手が『菌』だから、見えないものとの対話なんですよ」とある元杜氏さんは言いました。「何年やっていても、毎年違うんです」と現役杜氏さんも言いました。

モノを生み出す者にとって、つくる場所は大切です。芸術家にとっての「聖域」は「アトリエ」です。

毎日が紙との対話です。毎日が墨との出会いです。

お酒造りも作品作りも毎日が真剣勝負なのです。



室谷文音 (むろや・あやね)
昭和55年大阪府生まれ。13歳で単身渡英し、平成18年に両親と共に能登町に移住。内浦長尾にアトリエ「桃花林」を構える。2011年2月に「フードピア金沢2011」で講演。10月には、しいのき迎賓館での展覧会が決定している。



『凧』

